

2018年12月5日

各 位

オリックス株式会社

酪農機械を輸入販売する国内大手企業 「コーンズ・エージー」へ出資

～出資先企業の成長を通じて、日本の酪農産業の拡大に貢献～

オリックス株式会社（本社：東京都港区、社長：井上 亮）は、このたび、酪農機械の輸入販売などを手掛ける国内大手の株式会社コーンズ・エージー（本社：北海道恵庭市、社長：南部谷 秀人）へ出資しますのでお知らせします。現株主との間で株式譲渡契約の締結を完了し、本年12月中をめどにコーンズ・エージーの発行済み全株式を取得する予定です。

コーンズ・エージーは、1968年設立の酪農機械や農業関連機械の輸入・販売、設置・施工、メンテナンスを手掛けるトータルエンジニアリング会社です。創業以来、欧米諸国を中心とする酪農先進国の生産効率を日本で実現できるように、世界中からさまざまな商品を輸入し、粗飼料収穫から搾乳・糞尿処理に至るまでの一貫した生産体系の構築と普及に貢献してきました。中でも、搾乳ロボットに関しては1997年の日本初導入時から取り扱っており、現在約7割の国内販売シェア※1を有するパイオニア企業として、酪農家から高い信頼を得ています。

日本では、後継者不足や人手不足から、酪農家数が2009年の23,100戸から2018年2月現在で15,700戸へと減少しています※2。一方で、政府が年750万トンの生乳生産量目標を掲げており、生産量を向上させるために大規模化・機械化による省力化や収益性向上が喫緊の課題となっています。そのため、コーンズ・エージーが得意とする搾乳ロボットは、生乳生産現場における課題解決の手段として、今後も導入の拡大が期待されています。

オリックスは、本出資後、コーンズ・エージーの経営の独立性を維持しつつ、他の酪農関連事業者とのアライアンスや資本業務提携など、コーンズ・エージーの成長や酪農産業の発展に向けたさまざまな施策の立案・実行をサポートするとともに、コーポレートガバナンスの高度化など、企業価値向上を支援します。

畜産・酪農業界においては、オリックスは、2016年4月に動物用ワクチン製造・販売の国内最大手である株式会社微生物化学研究所に、また同年7月には動物用医薬品の大手メーカーであるフジタ製薬株式会社にも出資しています。これまでに培ったオリックスグループの専門性をもとに、今後も安定した事業基盤や質の高い技術・サービスなどを有し、引き続

さらなる発展が期待できる企業・産業への成長支援を行ってまいります。

※1 平成 30 年 5 月 18 日 農林水産省 生産局 畜産部 畜産振興課「働き方改革に向けた搾乳ロボットの現状」(<http://hokuraku.grupo.jp/media/6476932.pdf>) およびコーンズ・エージーの販売・稼働実績より算出。

※2 出典：畜産統計（平成 30 年 2 月 1 日現在）

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/>

以 上

<本件に関するお問い合わせ先>

グループ広報部 松村・長谷川 TEL：03-3435-3167

■ コーンズ・エージー概要

| | |
|--------|---|
| 会社名 | : 株式会社コーンズ・エージー |
| 所在地 | : 北海道恵庭市北柏木町 3 丁目 104 番地 1 |
| 代表者 | : 南部谷 秀人 |
| 設立 | : 1968 年 2 月 |
| 事業拠点 | : 国内事業所 18 |
| 従業員数 | : 219 名 (2018 年 4 月末現在) |
| 事業内容 | : 酪農・農業機器の輸入、販売、施工設置およびメンテナンス |
| 売上高 | : 約 149 億円 (2018 年 3 月期) |
| ホームページ | : http://www.cornesag.com/ |

■ 取扱商品 (一例)

①トラクター

(ランボルギーニ社製)



②搾乳ロボット

(レリー社製)



③ ミルキングパーラー
(ミルクライン社製)



④ ミルク冷却システム
(ミューラー社製)



⑤ 糞尿処理機械
(ゲアフル社製)



⑥ バイオガスプラント
(北海道鹿追町)

